



沖縄県小児保健協会活動に参加することができて

公益社団法人沖縄県小児保健協会
元理事／元事務局長 柵原 睦子

沖縄県小児保健協会の非常勤職員として私が前任者から業務を引継いだのは、創立4年目で4人目となります。沖縄県環境保健部予防課母子係の一角で事務机1台と椅子1脚、廊下に置かれたキャビネット1個、その上に乳児一般健康診査受診票が詰められた小さなダンボール箱3個でした。業務は乳児一般健康診査実施に関連する実務と理事会や総会等の開催事務等でしたが、県庁舎内の間借り事務所のため専用電話も設置されてない状況にありました。

その業務引継ぎから早40年余が経過したことになります。その間には事務局の所在地を、(旧)沖縄県公害衛生研究所(久茂地)、沖縄県環境保健部薬務課薬品倉庫(旭町)、沖縄県社会福祉センター4階(旭町)、東町会館8階(東町)と転々とし、2008(平成20)年12月に念願の小児保健センターを建設し移転しています。協会組織としては、職員を徐々に増やししながら協会活動を推進し、1981(昭和56)年3月にこれまでの任意団体から社団法人格取得、2012

(平成24)年4月公益社団法人へと移行し、今日では自前の小児保健センターで公益目的の活動を展開できるまでに成長しています。

小児保健に興味のある方はどなたでも小児保健協会の会員になれます。一つの専門職集団ではない小児保健協会がここまで成長発展できたのは、創立当初から継承されてきた先生方及び関係者の“子どもを思う熱い気持ちと健全に育もうという使命感”があったからだと思います。先生方及び関係者は島嶼県の抱える地理的課題等を踏まえ、講演会や研修会の開催、全国規模の学術集会の開催、市町村職員や役員等を県外研修会へ派遣する事で、小児保健に関わる人たちの知識の習得や情報収集を可能にし、専門職の資質向上に努めました。そのことは、いろんな職種の人たちに自信と勇気をもたらしたと推察しています。

一方、復帰直後の沖縄県母子保健行政担当者は、小児科医療施設の少ないなかで、医療機関に委託して行う「乳児一般健康診査」の導入に苦慮していました。県

行政担当課と設立当時の先生方で協議調整し知恵を絞った結果、集団健診の形でスタートし50年が経過したことになります。

今日では、小児保健協会の公益目的事業の根幹に位置付けされています。また、各専門職からなるチームと、小児科医で健康診査を実施できることは県外には類のないことであり、沖縄県の小児保健の基盤整備に繋がったと確信しています。乳幼児健康診査は各種団体との連携やご支援があり、多くの専門職のご協力、また、小児保健協会事務局職員も一丸となり頑張っているからこそ小児保健協会事業として推進でき、公益法人としての存在価値を高めていると思います。

会員や役員の皆さま、それに協会職員の皆さまは、協会創立当時から継承されてきた先生方及び関係者の熱い思いと使命感を忘れることなく、時代のニーズに添う先端を行く幅広い小児保健活動を展開し、今後とも小児保健協会が成長発展できるようご支援をお願い申し上げます。

私自身が、最後まで職務を全うすることができたのは、役員はじめ多くの関係者の皆さま、協会職員の皆さま方からの温かいご指導ご支援の賜ものと感謝しております。実際は数えられない程の失敗とご迷惑を繰り返してきた40年余でもありましたが、これまでの経験は私の誇りであり生涯の宝物となりました。ここに深く感謝とお礼を申し上げます。

最後に、公益社団法人沖縄県小児保健協会のさらなる発展と、小児保健活動に携わる皆様方のご健康と益々のご活躍を祈念申し上げます。